

橙 和

— TOWA —

Vol.1

2018年12月号

新潟食料農業大学 大学だより



(5月18日(金)農学基礎実習での田植えを終えて)

- 1 学長挨拶
- 2 学部長挨拶
- 3 教員紹介
- 4 学友会活動報告
- 5 学内・学外での活動の様子
- 6 大学祭「橙和祭※」報告



橙和…一期生による造語。本学のイメージカラーであるオレンジと、その実が春先から夏場にかけては青く、秋には見事に熟す「橙」を自分たちの成長になぞらえ、そしてその「和」が永遠(とわ)に続くように、との願いを込めています。

※「橙和祭」ネーミングに込めた学生の思いは、最終ページに記載していますので、併せてご覧下さい。

1 学長挨拶



新潟食料農業大学
学長 渡辺 好明

在学生の保護者の皆様には、日頃から本学の活動に対し、ご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。本学では、「食の総合大学」を目指した教育・研究に取り組んでおり、また多くの方々からは、将来、地域における「知の拠点」として発展することが期待されております。開学して以来、半年余が経過しましたが、学生たちは、学内・学外問わず様々な活動を通してまさに成長の真っ盛りを迎えつつあります。

ここで、内容に限りはありますが、学生たちのこれまでの活躍ぶりをご紹介し、その様子を保護者の皆様にもご覧いただければと考えております。

学内では学生団体「学友会」が結成され、彼らイニシアティブの下サークル団体も20を超え、学生間交流の柱となっております。また、学外においては、当地域に古くから継承されている「三八市」への出店や、田植え・稲刈りといった農作業等にも精を出しました。さらに、つい先日には初めてとなる大学祭「橙和祭」も実施され、苦勞しながらも大きなイベントをやり切った自信を得ている学生も多くいることでしょうか。このように多忙で充実した時間を過ごしている学生たちですが、この紙面を利用して、楽しく豊かな表情などをご紹介できれば幸いに存じます。

末筆になりましたが、今後とも皆様からのご支援をいただきながら、彼らがさらに内容ある大学生活を送れるよう教職員一同努力してまいりますので、どうかよろしくお願ひ申し上げる次第です。

2 学部長挨拶



副学長／食料産業学部長
中井 裕

開学から7ヶ月が経ちました。とても中身の濃い7ヶ月でした。

担当教員が土づくりから始めた学内の畑で、新入生は教職員と共に枝豆、トマト、ジャガイモ、トウモロコシを育て、収穫し、味わいましたし、学生・教職員全員で行った田植えと稲刈りも無事終了しました。第一期生たちは、作物と一緒に成長して、それぞれの中にきっと何かを稔らせていることと思います。

大学祭「橙和祭」は手探りの中でのスタートでしたが、前夜祭から大いに盛り上がり、学生たちは一人二役も三役も担って、構内を走り回る忙しさの中、見事に成功させました。

この橙和祭を記念して、ミカンとカキの植樹が行われました。植樹祭は学生中心で行われ、権威や常識にとらわれることなく、この地から未来に向けて歩き出す第一期生の決意が感じられる素晴らしいものでした。この新鮮な感覚を大切に、これからも充実した日々を送っていったらいいと思います。

3 教員紹介



食料産業学部 食料産業学科
講師 伊藤 崇浩

環境問題や食の安全に対する国民の関心が高まるなか、需要拡大が見込まれる有機農産物について、地域条件に対応した栽培技術の確立が求められています。そこで、私の研究では新潟県の風土に適した有機栽培技術の開発を目的として、リビングマルチを利用したナスの有機栽培の試験を行っています。新潟県は古くからナスの栽培が盛んであり、この研究を通して、有機農業が持つ様々な機能に関する啓発や有機農業技術の普及を目指します。



食料産業学部 食料産業学科
助教 柴田 誠

胎内市は、海岸線から内陸に向けて数kmの低地水田帯が続いた後に中山間地となります。近年、中山間地域では特に過疎化による耕作放棄地が増加の一途を辿っています。そこで、従来の多肥多収を目指した近代農業では足かせとなってきた「小規模で、投入労働力あたりの高収量が望めない」という中山間地域の特性を逆手に

とって、「生産持続性が保証され、環境にやさしい農業が可能」と読み替えることにより、新たな価値観を創出することが出来ると考えています。地域固有の物質動態の特性を活かし、低地水田帯とは異なる戦略の水稲栽培を行うことで、中山間地域農業の活性化を目指すべく研究を重ねています。



4 学友会活動報告

《学友会立ち上げの経緯》

学友会は学内・学外で生じる様々な問題を解決し、また、学園生活をより充実したものとするを目的に2018年5月30日に立ち上げられました。

《メンバー》

基礎ゼミIの各クラスより1～2名が選出され、第一回学友会総会場で各役員が任命されました。会長以下、副会長、学科委員、クラブ委員、県人会委員、会計、監事、大学祭実行委員、その他会員の計18名で構成されています。

《活動内容》

目安箱を学内に設置し、学生からの要望を大学側に伝え、その回答は広報活動の一環としてSNS等を活用しながら学生にフィードバックしています。また、サークル活動の支援、大学祭等の各行事の企画運営、地域社会との交流なども積極的に行っており、一期生の代表としてだけではなく、「大学の顔」としての活動を各所で行っています。



5 学内・学外での活動の様子



- 4月7日(土) ・第1回入学式挙行【写真①】
- 4月～ ・農学基礎実習における枝豆、ジャガイモ、トウモロコシ、トマトの作付け【写真②】
- 5月18日(金) ・農学基礎実習における田植え(手植え)を実施
- 6月4日(月) ・開学記念式典・祝賀会開催【写真③】
- 6月23日(土)、7月8日(日) ・基礎ゼミⅠにおける「三八市(胎内市)」出店
15人1チーム、5万円の予算で仕入れから販売まで行い、ビジネスを学ぶとともに地域の人々とふれあいました。
- 7月13日(金) ・農学基礎実習における食味試験
種や苗から作物を育て、品種や栽培方法の違いによる収穫物を比較し、味の違いを学びました。【写真④】
- 9月29日(土) ・農学基礎実習における稲刈りを実施
- 10月5日(金) ・第1回アグロフードセミナー開催
テーマ「改正商品衛生法公布とフードチェーンの安全について」
- 10月29日(月) ・第2回アグロフードセミナー開催【写真⑤】
テーマ「新潟における食料農業の未来～スマートアグリ未来、新潟の特産はどうか～」
- 11月4日(日) ・胎内市、JA胎内市、本学で三者での包括連携協定調式【写真⑥】
胎内市、JA胎内市、本学で三者での協定締結記念シンポジウム開催
学生による地域と連携した課外活動のプロジェクト報告【写真⑦⑧⑨】
- 自転車競技部～強化指定クラブ～【写真⑩】
インカレや福井国体出場
- 「外食インカレ2018」にて奨励賞獲得(全国4位入賞)【写真⑪】
全国の大学、全138チームの応募の中から11月17日(土)最終審査にて、本学学生が奨励賞獲得。1年生での受賞は本学の。
(主催:一般社団法人日本フードサービス協会、日本フードサービス学会、
後援:経済産業省、農林水産省)



6 大学祭「橙和祭」報告

11月4日(日)、快晴の下で第1回大学祭「橙和祭」が開催されました。

開催に先立っては一期生全員参加による記念植樹祭も行われ、温州ミカンの木などが植えられました。新潟では育てることが難しいとされるミカンですが、これから本格的に学ぶ加工技術を活かし、食農大ブランドとしての商品開発にもチャレンジしたいと意気込んでいます。



当日は、多くの方々にご来学いただき大変に盛り上がりました。学生たちが自ら腕を振ったカレー、芋煮、お好み焼きやポップコーンなどの屋台が多数出店した他、本学圃場では芋掘り体験も行われ、そのサツマイモを焼きイモにして美味しく食べる姿も数多くみられました。

「橙和祭」ネーミングに込めた思い

一胎内市の太陽になりたいー

食べることで人の心は温かくなり、『食』は食べる人・作る人・その周りの多くの人を繋げ、笑顔を広げる力がある。このような『食』の持つエネルギーを、ここ胎内市から多くの人に伝えたい!そして橙和祭をきっかけに胎内市の素晴らしさを伝えていきたい。

橙 色…オレンジで太陽をイメージ

和 …胎内市をつなぐ架け橋に私たち(学生)がなる
橙和祭…新潟食料農業大学がこれから胎内市の太陽になり、地域をさらに明るくして、私たちと関わっていただいた皆さんと私たち自身も笑顔になる祭典を開催する(以上、橙和祭パンフレットより)

今後の一期生ならびに本学の活動にご期待ください。

食の可農性を追究する。



新潟食料農業大学
Niigata Agro-Food University

▶新潟キャンパス 〒950-3197 新潟県新潟市北区島見町 940

▶胎内キャンパス 〒959-2702 新潟県胎内市平根台 2416